

名 称	茨城県鹿行生涯学習センター 体験活動ボランティア活動支援センター 「ふれあいサポートセンター鹿行」
所 在 地	〒311-3824 茨城県行方市宇崎1389番地
連 絡 先	TEL : 0299-73-3877 FAX : 0299-73-3925 URL : http://www.lakeecho.gakusyu.ibk.ed.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 鹿行地区 278,271人

茨城県南部に位置する、サッカーJリーグ・鹿島アントラーズのホームタウン・鹿嶋市（人口65,000人）にあり、2km先にはカシマサッカースタジアムが見える。鹿嶋市にある小学校12校中の一校で、生徒数311人の、この地域としては中規模の小学校である。

校舎は国道51号線（鹿嶋―水戸間）脇の高台に位置し、敷地内からは鹿島灘を近くに見ることができる。また、校舎の反対側へ1km程畑地や小さな山などを越えると鹿嶋市・神栖市をエリアとする、鹿島臨海工業地帯を支える水源としての北浦へ出る。

地域性としては市街地を大きく外れ、畑地や山など自然環境が多く残る地域であり、保護者には農業の傍ら鹿島臨海工業地帯の会社へ勤務する家庭も多い。古くからの住民と工業地帯の会社への転勤家庭などを主とする新規住民が混在しているが、児童・保護者ともに純朴でPTA活動や学校行事などにも積極的に関わっている。

学校は、奉仕活動や親子体験学習などを通じ、様々な形で地域、PTAとの連携、開かれた学校づくりを進めており、今回の事例も学校からの呼びかけに地域、PTAが応え、当センターの依頼でボランティアサークルが支援したケースである。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 鹿嶋市立中野東小学校読み聞かせサークル「くれよん」の立ち上げ及び活動の支援〔経緯〕

中野東小学校では、従来から朝の読書タイムを実施しており、木曜日には担任の先生が読み聞かせをするほか、年に一度、地域のボランティアサークルを招いての読み聞かせ会などを実施してきた。

平成17年4月、新しく赴任して来た校長先生は、前任校でのPTAを主体としたボランティアとの連携で、朝の読み聞かせを実現した経験から、同様の活動を進めたいという意向をPTA有志に図ったところ、保護者の1人とその友人を中心として、PTA読み聞かせサークルの立ち上げが計画された。

メンバーの募集は校長先生が発行されている「校長室からこんにちは」というミニ新聞の中に掲載されたが、最初に募集に応じてくれたのは2人のみであった。その後、個人的な声かけを含め、広く保護者に声をかけて14人のメンバーが集まり、読み聞かせサークルをスタートさせることになった。

当センターとしては、サークルづくりの注意点や学習の支援など、学校、サークル、既成の読み聞かせサークルなどと連携を取り、その活動の支援に当たった。

コーディネートの実際

i. (a) 平成17年4月、鹿嶋市立中野東小学校の校長先生から、PTAの保護者を中心とした低学年向けの読み聞かせ活動を実践するために、集まった活動メンバーに対し、読み聞かせについてのポイントを学習するための講師紹介依頼を受けた。前出の校長先生は、読書活動に深い関心をお持ちで、前任校でも地域、PTA、ボランティアサークルとの連携で活動を進めてきた経緯があり、センターも関わっていた。そこで、読み聞かせボランティアとして活動している他のサークル代表と連絡を取り、学習会の開催を支援した。

(b) 地域の教育力が低下していると指摘されている現在、依頼の活動は地域とPTA、学校を結ぶ活動として、また、地域に開かれた学校づくりの点からも望ましい活動として推進したい事例と思われた。

ii. 情報の収集・提供など

校長先生からの依頼に応えた形で集まった読み聞かせ活動希望者に対する学習会開催のための支援として、校長先生の前任校での活動を支援したことのある読み聞かせボランティアグループの情報を提供した。また、グループと連絡を取り、学習会開催を依頼するなど学習支援を図った。

iii. 支援した活動・行事等

中野東小学校の読み聞かせ活動希望者は、顔合わせを兼ねた打合せ会を開催し、①自己紹介、②研修会について、③シフトの決定、④ネーミング等について話し合い、決まった事柄についての連絡があった。研修会については、実技研修を実施することに決定した。

○研修会

メンバーには読み聞かせの経験者がいないため、まず基本的な学習から始めることとし、読み聞かせボランティアサークルと連絡を取った。

6月27日、ボランティアサークル会員2人が来校し、本の持ち方、見せ方や声の出し方、考え方などについて伝達した。充実した学習会とすることができた。



打合せ会

○シフト

「無理と思われることは避けたほうが良い」旨の提案をした結果、1年生は毎週木曜日朝に読み聞かせを実施し、2～3年生は1週間おきに実施することに決まった。

○ネーミング

活動するに当たり、「子どもたちの真っ白な心のキャンパスに色々な色で夢や希望を描いてほしい」との願いから、中野東小学校読み聞かせサークル「くれよん」と決まった。



活動の様子

iv. 成果

- ① 「くれよん」のメンバーからは、時間をやりくりしての読み聞かせや打合せ・作品選びなど準備にかかる手間は大変だが、学校へ出向くことで、子どもの様子や学校の様子も分かり、活動そのものも楽しいとの感想も聞かれた。また、読み聞かせ研修会などへ積極的に参加するメンバーも見られ、個人的な意識も向上しているように思える。
- ② 平成18年度は「くれよん」のメンバーとして、地区の有志2人、前年度の卒業生の保護者1人が加わった。平成19年度は4人が子どもの卒業のためにPTA会員ではなくなるが、継続して活動することになっている。また、新しい活動希望者もあり、地道ではあるが活動が地域に浸透してきている。
当初の計画が、読書に対する意識が子どものみでなく、家庭・地域への広がりを目指したものであったことを考えると次年度以降の更なる活動の広がりを目指したい。
- ③ 当支援センターでは、平成18年4月30日に、ボランティアの意識向上と青少年の体験活動・ボランティア活動を支援するための研修会を開催し、その折に活動事例として活動の現状や成果等の発表を行った。自分たちの活動のまとめということもあり、メンバーも積極的に発表に参加した。



発 表



交 流 会

v. 課題等

今回の事例では、依頼主である校長先生は以前の活動を通して知り合っており、また、リーダー的存在の方がしっかりと進めてくださったので、大きな混乱は見られず、当センターの担当者として困難と思われる面は少なかった。

しかし、依頼やその後の活動をスムーズに進めるためにも、知識・理解の場の提供とともに、リーダー育成はセンターの取り組まなければならない大きな仕事であり、リーダー養成のための研修会の必要性を強く感じている。

また、学習等に対する意欲の違い、スキルの違いなどを含め、個々の意識の違いには配慮をする必要がある。また、こういったPTA活動の延長もボランティア活動ととらえるならば、「ボランティア活動」に対するハードルは一段と低くなるとともに、自分たちでできることから始める意識を広めることにつながると考えられる。

執筆者職・氏名：茨城県鹿行生涯学習センター 社会教育主事

高崎 啓子

ボランティアコーディネーター

風間奈保美